カナダ便り

百五十もある電話会社

栗崎　由子

カナダの電話システムは、日本やアメリカと並んで、雑音や故障が少ないなど非常に質の高いことが自慢です。

毎日の暮らしの中でも、電話はとても便利です。大学やまちの図書館では、いつでも、気軽に電話での本探しに応じてくれますし、連邦政府や市の担当者も、電話で一般市民の調べものに気軽に応じてくれます。

この国の人々には、「電話では失礼にあたる」という考え方は無いようです。

人口に対する電話機の数も多く（一九八二年における人口百人当たりの電話機数はカナダ六十五・七台に対し日本は四十六台）、一軒の家にはたいてい二台か三台、電話があります。

ところでカナダには大小合わせて百五十にものぼる電話会社があって、それぞれが大なり小なりの地域で独占的に地方電話網を運営しているのです。そのうえ、それらの会社は私企業、州営企業、また市営企業と、その持ち主は様々です。

例えばベル・カナダ社。これは収入も、サービス地域の広さも、カナダで一番大きな電話会社です。カナダの電話会社全体の収入の五〇パーセント強はベル・カナダ一社であげていますし、そのカバーするエリアもオンタリオ、ケベック両州のほとんど全域にわたっています。この会社は私企業です。

二番めに大きなブリティッシュ・コロンビア電話会社（BCテル）も私企業で、収入面では電話市場の約一三パーセントを占めています。ところがエドモントン電話会社はエドモントン市（アルバータ州）の市営企業で、サービス提供地域もベル・カナダ社やBCテル社に比べてずっと小さければ、収入も小さい、カナダ全体の電話会社の収入の二パーセント以下という、まことに〝かわいらしい〟電話会社です。しかも興味深いことに、アルバータ州の他の地域は、みなアルバータ州政府電話会社の地方電話網に組み込まれているのです。

電話会社が地域ごとにこんなにバラバラでも、長距離電話は、いつでも、どこにでもかけられます。カナダには長距離専門の電話会社はありませんが、その代わりに、各地域の電気通信網は互いにつながっています。そして電話会社同士が、長距離通話からの収入の分配方法について協定を結んでいるおかげで、カナダの人々は二つ以上の電話会社にまたがって電話をかけることができるのです。

電話会社は各地域での独占企業ですから、電話料金の設定等について、電話利用者の利益を守るために、公的機関の規制をうけます。この機関も地域によってまちまちです。ベル・カナダ社やBCテル社は連邦政府（Canada Radio-Television and Telecommunications Commission, CRTC）、またエドモントン電話会社とアルバータ政府電話会社は、それぞれエドモントン市、アルバータ州政府が監督する、という具合です。

ところが、複数の電話会社を経由する長距離通話の料金、サービスには、公的機関の規制はありません。果たしてそれで長距離通信を利用する人々に対して公正な料金、サービスが確保されるのか、という疑問が残ります。この問題には今、カナダ国内で少しずつ関心が高まりつつあります。

また現在、電気通信サービスの規制がまちまちなために、地域的不公正が生じています。例えば、ある州では電気通信網にA、B、Cという端末機が使えるのに、隣の州ではAとBだけが許可されていて、Cは使えない――ということが現実に起きています。

安い長距離通信網の利用についても同様です。CRTCの管轄しているオンタリオ、ケベック、BC州の人々は、一般の電話会社の長距離通信網だけでなく、CNCPテレコミュニケーションズ社と契約して、その安価な長距離通信サービスを利用することもできます。ところが、他の州ではそれができません。というのも、他の地域では、CNCPテレコミュニケーションズ社のような、地域独占を認められた電話会社以外の会社が電気通信サービスを提供することは禁止されているのです。

各州がそれぞれの事情に応じた独自の政策を打ち立てることは、とても大切である一方、電気通信政策に限り、時代は、いっそうの国家的統一が必要な「情報化時代」に移行していきます。その過程でカナダがどういう道を選ぶのか、私はこれからも見守りたいと考えています。

（トロント大学大学院在学中）